

報道関係各位

学校法人成城学園

**-成城学園が50年間続けている「読書」教育の取組-**  
**「読書のすすめ」50年目！第50号の発行を記念して**  
**あなたが「先生」にすすめたい本を大募集**  
 ～小説、エッセイ、マンガ、絵本等あらゆるジャンルの応募を受付～

学校法人成城学園（東京都世田谷区 理事長：渡 文明）は、このたび「読書のすすめ」50年目50号発行を記念して、こどもから高齢者の方まで**全国の皆様から、あなたが「先生」にすすめたい本**を大募集いたします。

今年50年目の第50号を発行した成城学園の「読書のすすめ」は、読書の習慣づけを重視した創立者澤柳政太郎の教育方針に基づき、1965年（昭和40年）より毎年1つのテーマに沿って、成城中学校高等学校のさまざまな教科の教員が学生・生徒に読んでもらいたい本を選び、その本についてのエッセイを執筆し、約100冊もの本を紹介するものです。

今回は「読書のすすめ」50年目の50号発行を記念して、教員から生徒へ「読書のすすめ」をするのではなく、全国の皆様から、「先生」・「教師」一般、またはあなたの「先生」（恩師、ご自分が先生と思っている方）にすすめたい本を募集いたします。応募に際しては、こどもからご高齢の方まで年齢・性別は問いません。様々な形で教育や先生の問題が語られている中、読書や本を通じてあなたのメッセージを「先生」に届けてください。すすめたい本のジャンルについては、小説やエッセイ、マンガ、絵本どんなジャンルでも構いません。また、すすめたい理由については、「先生」への感謝、叱咤激励、叱責、こういう気持ちに共感して欲しい等を簡単に200字以内でお書きください。集計の結果は、10月の読書週間前に発表致します。是非、この機会にあなたが「先生」にすすめたい本を教えていただき、あわせて「先生」へ皆様のメッセージをいただければ幸いです。

**《募集要項》**

期 間：2014年9月1日（金）～10月13日（月・祝）  
 応募方法：成城学園ホームページ特設サイトからご応募できます。  
 特設サイト（WEB：[https://questant.jp/q/seijogakuen\\_dokusyo](https://questant.jp/q/seijogakuen_dokusyo)）  
 ※郵送の場合は、下記質問項目4つを記載した上、

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 学校法人成城学園  
 企画広報部「読書のすすめ係」宛 でお送りください。

募集内容：あなたが「先生」にすすめたい本を教えてください。

- 質問項目：①「先生」にすすめたい本のタイトル  
 ②「先生」にすすめたい理由（200文字以内）  
 ③ 性別  
 ④ 年齢

結果発表：2014年10月中旬頃  
 成城学園ホームページ特設サイト及び成城学園図書館にて  
 該当図書の展示を予定。



本件に関するお問い合わせ

## 《成城学園の「読書のすすめ」とは》

創立以来、成城学園では「読書」の習慣づけを重視しています。卒業後も学問を続けるには、学生時代の読書の習慣が不可欠だという創立者・澤柳政太郎の考えに基づき、初等学校では国語以外に「読書」の時間を設け、中学では、国語の授業を週1回「読書」の時間にあてています。「読書のすすめ」も「読書」の教育の一環で、毎年1つのテーマに沿って、成城学園中学校高等学校のさまざまな教科の教員が生徒に読んでもらいたい本を選びエッセイを執筆し約100冊もの本を紹介する書籍です。夏休み前に全生徒に配布されます。今年50年目の50号にふさわしく「節目」がテーマです。過去には著名人から寄稿もあり、「読書のすすめ」第2号には、小説家であり評論家の大岡昇平が「私の読書法」というタイトルで寄稿しています。



「節目」のテーマにちなんで  
教員が執筆したエッセイの一部

## 《成城学園の「読書のすすめ」発刊のきっかけ》

「読書のすすめ」は、そもそも昭和40年当時の成城学園高等学校の校長であった穂積重正先生が、下村寅太郎著「西田幾多郎一人と思想」の中に出てくる、京都一中（旧制中学）で配布されていた「読書の葉」に大変感銘を受けて、つくられるようになったものです。「読書の葉」は、28ページほどの小冊子で、西田幾多郎、河上肇、小島悠馬、というような後に日本の学界を指導した人達が「読書の手引き」を書き、終わりに何冊かの推薦図書がそえられているものだったようです。

## 《成城学園の読書教育の伝統》

成城学園の創立者・澤柳政太郎は、その著書『学修法』の中で、読書について、「学生は、学校の授業のほかに余暇を利用して広く本を読むことをしなければならない。（中略）学生時代に読書の習慣を作らない者は、学校卒業後、学問を継続することは非常に困難になってしまう」と述べています。卒業後も学問を続けるには、学生時代の読書の習慣が不可欠だという創立者・澤柳政太郎の考えに基づき、成城学園では伝統的に読書の習慣づけを重視しており、初等学校では国語以外に「読書」の時間を設け、中学では、国語の授業を週1で「読書」の時間にあてています。50年間続いている「読書のすすめ」もその一つです。

## 《現在の成城学園の読書教育の実践》

- 《初等学校》 初等学校では「読書」の時間を設置しています。国語の延長としてではなく、場所（図書室）と時間（読書の時間）と教材（本）を保証し、子どもたちが自主的に読書を行う環境を整えています。3年生は週に1時間、4年生は隔週1時間の「読書」の時間を設置。5、6年生は週に3回、朝の時間（10分間）に朝読書を実施。
- 《幼稚園》 教員による日常の読み聞かせのほか、初等学校の児童による読み聞かせも行っています。児童とペアを組んで、じっくりと本を読んでもらうことによって、読書への興味を喚起する機会となっています。
- 《中学校》 1、2年生は週に1時間、国語の授業を「読書」の時間にあてています。